

あわら温泉と上水道財産区の水は友だち

ぼくの名前は「ざいさんくん」と言うんだよ。あわら温泉に住んでいる水の案内人さ。水道の蛇口をひねるとキレイな水が出てくるよね。みんなが生まれる130年以上前の芦原は、井戸を掘って湧き出た水で生活をしていたんだって！
今のような便利な水道もなく、きれいな水でもないの、みんなとても困っていたんだ。



そのころ（明治16年）の夏、日照りで雨が降らず、田んぼが干か
らびたので、井戸を掘ったら、翌朝には、田んぼ一面に湯気が広が
っていたんだって。しょっぱい味のお湯にびっくりして、これでは
お米ができませんと悲しんだけど、温泉が湧き出たとうわさが広がり
温泉で身体を休めようと人々がたくさん集まるようになったんだ。

それから、宿泊できる旅館も建ち並び、「あわら温泉」が知れわたるようになったんだよ。
（その場所は、「念仏田」といって、現在は温泉発祥地公園になっているよ）

あわら温泉とみんなが飲んでいる水には、深いかかわりがあることを知っているかな？
旅館には、旅のお客さんが多く訪れたため、水が不足したんだ。温泉街の中心部を掘ると
温泉が出て、きれいな水が出なくて、近くの山のふもとわきみずを、竹の中をくりぬ
いて作ったパイプをつなぎ合わせて旅館に運んだんだ。これが、あわら温泉の水道のはじ
まりだよ。

明治30年には汽車が走るようになり、お客さんも増えてきたため、水道管を細い竹から
太い木をくりぬいて埋めかえる工事が進み、10年後には温泉街の水道が完成したんだ。
それでも、木の水道管は腐りやすく管理が大変で、衛生面でも満足できなかったため、本
格的な上水道を作る計画をして、大正15年（温泉が湧き出してから43年後）に、牛山区に
井戸を掘って電力ポンプを使い、旅館以外のみんなの家にも水道を繋げて、水を送ること
ができるようになったんだ。

魅力的なまちになり、人々が増え続ける中、断水といって、水が足りなくなったことも
あったけど、何回もの井戸掘り工事をし、ようやく各家庭に水を送れるようになったん
だよ。でもね、昭和23年の福井大地震で、水道は一瞬にして断水してしまい、復旧工事に
6年もかかったんだ。水のない生活なんて考えられないけど、今のような便利な世の中に
するために、昔の人の苦労は大変だったと思うよ。

ところで、財産区って何か知っているかな？

現在のあわら市は、平成16年に芦原町と金津町が合併したけど、
芦原町は、昭和30年に芦原と北湯村、本荘村と合併したんだよ。

そのときに、あわらの美味しい水が温泉区民の財産となるように、
地方自治法という法律による「財産区」という団体を作って運営

されることになったんだ。今でも「芦原温泉上水道財産区」として、みんなが安心して水
が使えるようにがんばっているんだよ。



その翌年には芦原大火に見舞われて温泉街の半分が焼けてなくなっ
しまったんだ。その後、長い年月をかけて整備され、現在のあわら
温泉と水道があるんだよ。

そして、あわら市の水道には、市が行う水道事業と財産区が維持
管理する水道事業の2つがあるんだよ。財産区の水は、主に温泉三区（田中温泉区、二面
温泉区、舟津温泉区）と牛山地区に水道が通っていて、温泉三区には、坂の上にある牛山
の高いところから温泉街の低いところに水道管を通して一気に水を流しているんだよ。

最後に、ぼくたちの水のことを、みんなにお話して、物語にしてね。

あわらの美味しい水は、白山に降り注ぐ雨水や雪解け水が地下水となり、長い年月をか
けてあわらまでたどり着くんだよ。水の温度は1年中、ほとんど
変わらず、夏は冷たく冬は温かく感じ、水量は豊富で水質も良く、
まるやかな口当たりでさっぱりした風味の軟水なんだ。
長年愛され続けている「あわらの名水」だよ。

